

知・技の創造 ものづくり大学発

▷52◁

住むための空間づくりが建築の始原である。住宅はその地域文化・歴史・技術・自然の物的現象である。日本の固有の住宅文化、生産技術、生産システムの調査研究を通じて、日本の建築生産、建築社会システム、建設産業の構造を研究している。

近年機会を得て、ミャンマーでのバナキュラーな住宅生産システムを調査してきた。ミャンマーは2001年の民政権発足とともに開国し、対外関係正常化と経済自由化を受けてアジアのラスト・フ

代を経て、戦禍の中で貴重な高価な資材となつて、庶民の木造建築郡は破壊され消滅。木造住宅建設の妨げとなつて、その建設の担い手であつた大工や木造建築技術は体系化されないまま縮小のスパイ

■木材事情と木造住宅
ミャンマーでは、環境保全のため、木造住宅建設の妨げとなつて、その建設の担い手であつた大工や木造建築技術は体系化されないまま縮小のスパイ

深井和宏 技能工芸学部建設学科教授

土地に根付いた住宅生産



ふかい・かずひろ 京都大学工学部建築学科卒業、同大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了・同博士課程単位取得退学、工修、1級建築士、関東職業能力開発大学校助教授を経て2001年よりものつくり大学、05年より現職。専門分野は建築生産、構法計画、建築経済、木造住宅生産、建築設計監理、建築社会システム

ラルに入っている。膨大な森林資源を有するにもかかわらず、国際情勢の中で国内需要を回らず、木材資源は非常に

木材はヤンゴン市内への持ち込みも禁止されている。バガ地区においても木材流通は厳しく統制され、よって古材の流通が盛んで、木造住宅を解体後必ず再利用している。

■住宅の平面プラン、構造材料
インレー地区は基本高床住居で、仏壇付の客間と寝室が区画されただけの基本シンブルな構成である。それに台所とベランダが付属している。客間は居間・食堂として兼用される。日本家屋に見られる居間と食事室の兼用、床座敷の生活様式が普通である。国民の9割が仏教徒であり、住宅の中に仏壇を置くことは必須である。仏壇の位置に宗教上のルがある。集合住宅住戸、戸建2階建てに定型システムの提案を行っていく。

的ルールがある。構造はきわめてシンプルで門形フレームをボルト締めによつて構成し、これを並列に配置して基礎に埋め込んだアンカー金物にボルト締めることで自立させ、棟部分と桁部分を柱に大工が登つてボルトで繋ぎ合わせる。竹松ピンガドーなどが構造と仕上げの主要素材である。現在の日本住宅産業界でも高度技能技術者不足は深刻であり、ミャンマーにおいて、レーマーを中心とした日本型住宅生産システムに対応できるミャンマー人高度技能者育成システムも試行されている。